

小児AYA世代がん患者支援チームより

こんにちは！小児AYA世代がん患者支援チームです。
細々と活動継続しています！
この8月からは、対象に小児も加わりました！

新体制で活動中

千葉県がんセンターが小児がん連携病院の指定を受けました。
15～39歳のAYA世代に加えて、0～14歳の小児に対しても病院を挙げた支援体制を提供することになりました。さらなる体制強化のため、メンバーを増員しています。

【新メンバー】

- ・精神腫瘍科 大上俊彦医師 石田彩子心理士 川畑貴子心理士
- ・脳神経外科 塚田司医師

患者さんを支援に繋ぐために、対象と考えられる方について連携して頂くよう、都度メールで依頼しています。

「若い方を支援するチームがあるので、一度話を聞いてみませんか」とご案内ください。

患者データ

昨年2020年度、がんセンターでは98人のAYA世代患者さんががんと診断を受けました。
そのうちチーム支援に繋がったのは30人・30.6%です。

ちなみに、小児の患者さんは178名受診されており、うちがんと診断された方は36名でした。
年齢は6歳からとなっています。

対象となる小児AYA世代の患者さん家族の全員に対して、
支援や情報提供を行えるよう目指していきます！

お知らせ

①小児がん公開講座のご案内

日時：令和3年12月11日（土）15～16時

形式：オンライン講演会、

講師：大宮アルディージャ アンバサダー塚本泰史さん
(骨肉腫の経験者)

問い合わせ：千葉県がん診療連携協議会事務局
千葉県がんセンター事務局



②SNSで当事者同士が繋がる

希少がん患者コミュニティ「raccoon」

字のごとく、希少が故になかなか出会えない仲間との
情報交換や交流のためのサイトです。



ケース紹介

30歳台前半の女性 乳がんの患者さん 妊孕性温存治療の相談です

乳がんで術前に抗がん剤治療をして手術の予定。
担当医から妊孕性が損なわれる可能性がある治療なので、
相談支援センターで相談するように言われてきました。

まだ婚姻関係にないパートナーと同居中。

パートナーと
母親

患者さん

妊娠・出産を考えているあるいは迷っている場合は、専門医を受診したほうがよいとされています。『生殖心理カウンセラー』というカウンセラーがいるところだと、決めていく上でのサポートも丁寧してくれますので、おすすめ。受診先としては、県内でアクセスがよいところだと、〇〇病院があります。

術後もホルモン治療をする期間がある。
婚姻関係じゃないから受精卵保存はできない。ホルモン治療後に妊娠となると、
ほぼ40歳で確立が下がることを情報提供しないと。（担当医兼チームメンバー）

がん相談支援
センター

AYA支援チーム
カンファレンス

予定しているがん治療と受けられる妊孕性温存医療とのスケジュールや費用などの概要と、そもそも子を授かることが確定するものではないことを前提として受療するかをカウンセラーと一緒に考えてくれる。
情報提供から決断は即決。繋がってから即日で繋がったのは良かった。

がん治療がいつまで続くのか、そこから妊娠出産子育て、と妊孕性温存医療を受けるには、長期的な見立てを必要とします。
『子供を授かることは、あくまでスタート』なのです。

ご依頼・お問合せは、がん相談支援センター（内線：7145）まで

チームメンバー

リーダー 乳腺外科部長 山本医師、整形外科部長・米本医師、腫瘍血液内科・佐藤医師、
脳神経外科 堺田医師、精神腫瘍科 大上医師、石田心理士、川畑心理士、
患者総合支援センター 丹内師長、乳がん認定・西看護師、5B病棟・木村看護師、
がん相談支援センター 吉原MSW・中村看護師